

1) 表彰関連【審議事項】

下記4件の表彰について、受賞候補者を決定します。

◆水工学論文賞

◆水工学論文奨励賞

◆Best International Paper Award

◆アウトスタンディングディスカッション賞

選考スケジュール	10月	11月	12月	1月	2～3月		
<ul style="list-style-type: none"> 水工学論文賞 水工学論文奨励賞 Best International Paper Award 	対象論文 選定	審査員 選定 →依頼	講演会后 1～2週間で審 査結果を回収	集計	委員会で 決定 →対象者 に通知	水工学委員 会HPで受 賞論文・受 賞者の公表	論文賞・奨励賞・ BIPAは、翌年度の 水工学講演会に て授賞式

2)投稿要領の一部改正について【審議事項】

土木学会論文集特集号(水工学)投稿要領(令和5年4月17日一部改正)より

<https://committees.jsce.or.jp/hydraulic/node/26>

11. **公表された論文**の訂正

刊行後判明した著者の責任による軽微な訂正については、訂正記事の掲載をしないため、原稿作成にあたっては十分注意すること。なお、内容の理解にかかわる重大な訂正については、水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断するが、訂正記事を掲載する方向で対応する（有料）

記載	解釈
公表された論文	講演資料集として参加者に公表されている
刊行後	講演資料集として刊行後

“J-Stage”ではなく“講演資料集”として「刊行」された論文が対象である旨がわかるように、一部文言を修正する。

現行	改正案
11. 公表された論文の訂正	11. 公表された論文の訂正
刊行後判明した著者の責任による軽微な訂正については、訂正記事の掲載をしないため、原稿作成にあたっては十分注意すること。	<u>講演資料集として刊行後に</u> 判明した著者の責任による訂正については、訂正記事の掲載をしないため、原稿作成にあたっては十分注意すること。
なお、内容の理解にかかわる重大な訂正については、水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断するが、訂正記事を掲載する方向で対応する（有料）	なお、内容の理解にかかわる重大な訂正については、水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断するが、訂正記事を掲載する方向で対応する（有料）

p.1 令和6年3月6日一部改正

p.9 附則 この修正要領は、2024年3月6日より施行する。

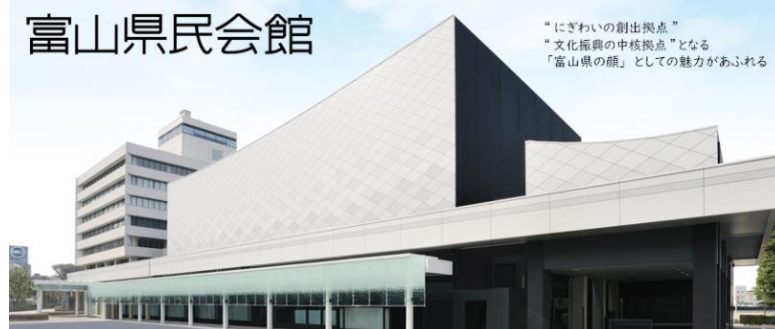
2024年水工学講演会（富山）

- 開催日時：2024年12月2日（月）～4日（水）
- 会場：富山県民会館（JR富山駅より徒歩15分）
- 部屋の配置
 - ・講演会など：ホール（1,105名）
 - ・第1会場：304（144名）
 - ・第2会場：302（81名）
 - ・第3会場：401（153名）
 - ・第4会場：611（90名）
 - ・第5会場：701（81名）
 - ・受付・企業展示：301（60名）
 - ・その他：事務局休憩部屋、部会用5部屋（中日の昼）

- 予算規模（会場・備品使用料）
 - ・160～180万円（ホールを第1会場でフル利用予定）
 - ・補助金の申請を開始
（県：20万円、市：45万円[3日間、300～399人]）

- 懇親会：近隣施設を予定（高くなりそう・・・）

- 特別講演：人選開始



写真・地図：富山県民会館HPより

■ 部屋の配置

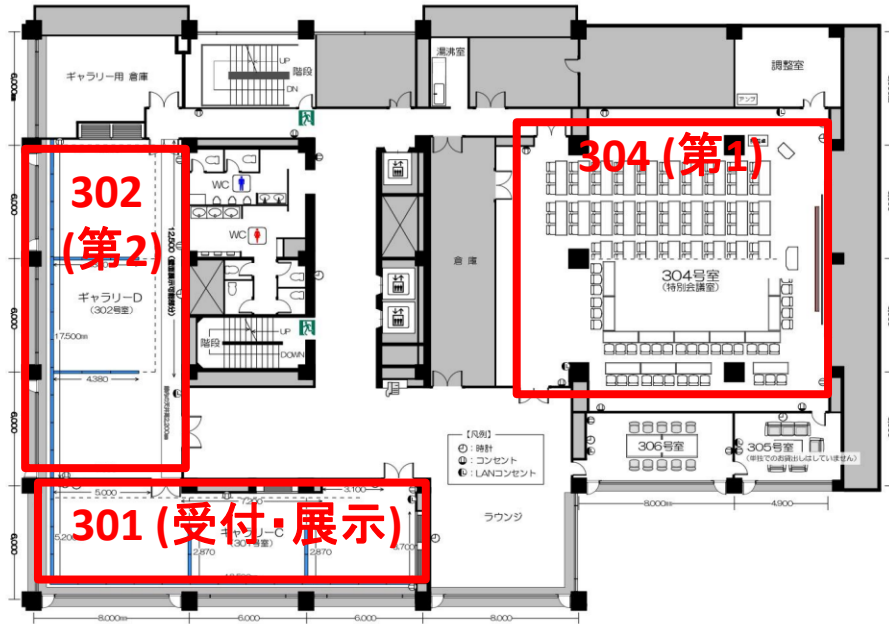
- ・講演会など:ホール(1,105名)
- ・第1会場:304(144名)
- ・第2会場:302(81名)
- ・第3会場:401(153名)
- ・第4会場:611(90名)
- ・第5会場:701(81名)
- ・受付・企業展示:301(60名)

ホール(2階)

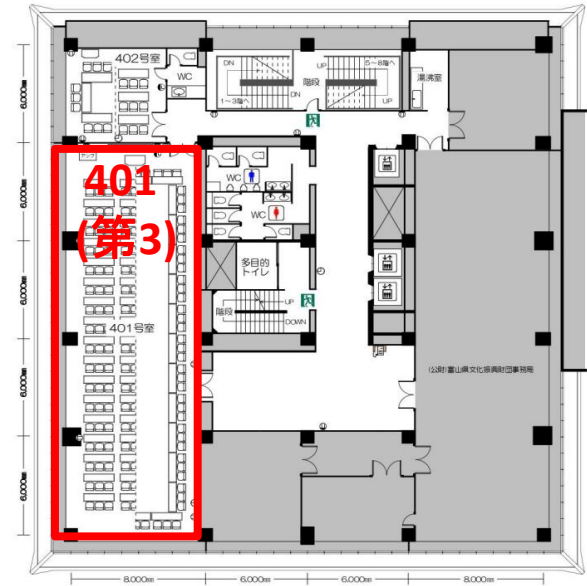


写真:
富山県民会館HPより

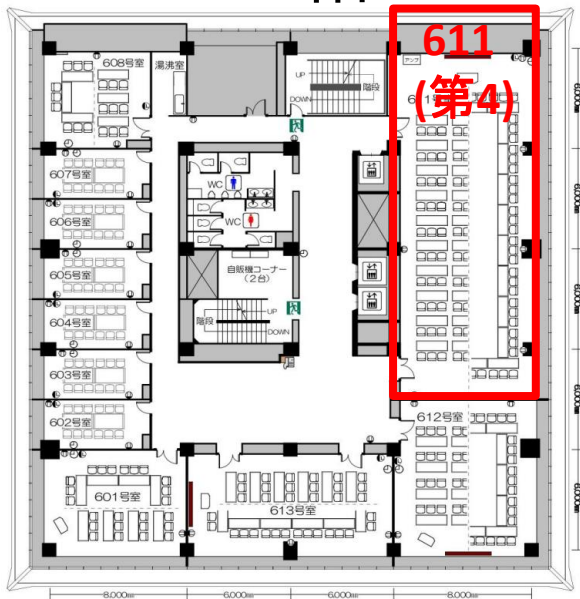
3階



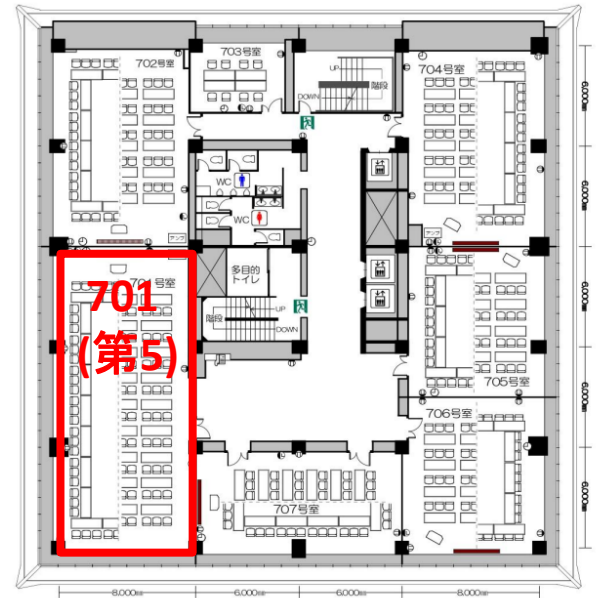
4階



6階



7階



4. ISO/CEN規格情報

4－5. 水文観測分野：ISO/TC113 (Hydrometry)

1. TC113 (Hydrometry: 水文水理観測) の概要

TC113 (Hydrometry: 水文水理観測)は、「開水路における水位、流速、流量及び土砂輸送、降水、蒸発散、そして地下水の利用と挙動に関する水文観測の方法、手法、機器そして装置の標準化」を対象とする国際標準化機構 (ISO) における専門技術部会 (TC)である。我が国の唯一の正式なISO会員である日本産業標準調査会 (JISC)からの依頼により、(公社)土木学会がISO/TC113の国内審議団体の役割を果たしており、2000年3月から水工学委員会の下で国内検討委員会を立ち上げ、審議活動を開始している。

TC113は、以下のように、全体を統括する本委員会とともに、5つの分科会 (Sub-Committee) から構成されている。

	幹事国	参加形態*)	発行規格	審議中規格**)
① TC113 本委員会	: インド	P	8	0
② SC1 (面積流速法＝開水路流量観測)	: インド	P	12	1
③ SC2 (観測構造物＝堰など)	: 英国	P	16	1
④ SC5 (測定機器とデータ管理)	: 中国	P	12	0
⑤ SC6 (土砂輸送)	: インド	O	11	1
⑥ SC8 (地下水)	: 韓国	O	6	2

*) P: 投票権を有するPメンバとして参画, O: 投票権を有しないOメンバとして参画

***) 2024年2月27日現在

これらの各分野における国際標準規格は、我が国における河川・水資源等の計画・管理に係る諸技術基準に関連するだけでなく、水文観測およびそのデータ取得のための様々な観測機器諸元やデータ管理等に関連する我が国の民間における活動にも関連し、かつ、それらの諸活動の国際展開の共通基盤として大きな役割を果たすものである。

2. 最近の動向

本稿では、令和5年度中 (2023年4月～2024年2月) の動きを中心に最近の動向を紹介する。

(1) 定期国際会議の動向

a) TC113全体会議

TC113としては、新型コロナ禍前までは、概ね1年半に1回の頻度で定期的に国際会議 (総会) を開催してきた経緯がある。日本としては、2004年5月17-21日に第23回総会をつくば (研究交流センター)、2015年5月24-29日に第30回総会を東京 (土木学会) にてそれぞれホストしている。2017年10月9-13日には第31回総会がインド・Noidaにて開催された後、第32回が2019年春に中国にて当初開催される予定であったが、延期のアナウンスがあった後、新型コロナ禍が続く中で、開催の目処が立っていない状況が続いていた。

その状況の中で、2023年4月21日時点で、突然、TC113としての全体会合をインド・ニューデリーにて、事前の日程調整なしに同7月17日に1日限りで開催 (WEB併用) すると連絡があった。日

程調整なしでの約3ヶ月前での直前の連絡であるばかりでなく、これまで通常は1週間ほどの期間を設定して開催していたTC113定期国際会議を1日限定で開催する、との極めて異例の連絡であった。しかし、5月18日時点で、7月17日開催とアナウンスしたTC113定期国際会議は10月31日からの数日間の開催に変更する方針であり、現在インド政府と協議中、との連絡が一旦入った。しかしながら、この10月31日からの開催方針についてもその後続報がないまま、流れることとなった。

そして、12月22日の時点で、N847文書として、第32回TC113定期国際会議をインド・ニューデリーにて2024年4月22日から27日にかけて開催する（WEB参加も可）との正式アナウンスが発出されるに至った。

これを受けて、2024年2月19日に、国内検討委員会を（国）土木研究所会議室にて開催し、以下のように第32回TC113定期国際会議への対処方針を定めるとともに、今後の活動方針について議論を行った。

- ・2024年4月のTC113定期国際会議について、最新のTC113審議状況と今後の活動の方向性（特にSC8でみられるようなScope拡大への議論の有無）を把握するため、日本としても、議事が予定されているTC113全体、SC1（一部SC2関連を含む）、SC6の関係者を中心として、WEBを通じてのリモート参加を行う。
- ・TC113国内検討委員会の今後の活動の方向性や体制のあり方について課題認識が示された。
- ・定期レビューを含む様々な投票案件について、適切に意見集約と投票判断を行うためのプロセスを再確認した。

b) SC2個別国際会議

2023年10月17日に、SC2としての国際会議がリモート形式で開催された（事務局：英国）。日本からは、国内検討委員会でSC2を担当する土木研究所水工チーム水草首席研究員（主査）および宮川主任研究員がリモートで参加した。そこでの主な審議内容や決定事項は、(4)SC2（観測構造物）の動向 に記載する。

c) SC8個別国際会議

2023年6月8日にSC8としての国際会議が韓国にてリモート形式で開催された。日本国内ではSC8担当委員を指名していないため、TC113国内検討委員会の深見委員長と事務局の柳川（土木学会）がリモートで参加した。審議内容や決定事項は、(7)SC8（地下水）の動向 に記載する。

なお、次回のSC8個別国際会議について、2024年5月29~31日に韓国慶州市（リモート参加を含むHybrid形式）にて開催されるとのアナウンスがあった(2024年2月)。

(2) TC113本委員会の動向

TC113としての第32回定期国際会議開催予定（2024年4月22日～27日）のアナウンスと、それを受けての国内検討委員会開催（2024年2月19日）については、(1)に述べた通りである。

令和5年度中に定期レビューされた既存規格はなかった。

WG8（降水量観測所密度）について、以下の動きがあった。

- ・WG8のConvenerについて、Stewart Child氏（英国）が12/31に任期を迎えたが、投票により、3年の任期延長（2026年末まで）が承認された。

(3) SC1（流速断面積法＝開水路流量観測法）の動向

以下の既存規格について、現在定期レビュー中である。

- ・1070（勾配面積法）

SC1内のWGについて、以下の動きがあった。

- ・SC1/WG9（21251, 旧TS24577：非接触型表面流速・流量観測法）：

従来TS24577として文書化が検討されたが、2015年にSC1/WG9 (Convenor: 萬矢委員) として本規格の作成プロジェクトが開始され、当初はTRとしての規格化を日本が主導してきた。2019年5月に修正した案に対して、ISO事務局からTRとしてではなくTS (国際技術仕様書) とするのが適切との判断がなされ、それが2020年2月に投票により承認されている。2020年12月に萬矢委員はWG9のConvenorとして一旦再選されたが、長期にわたる貢献と負担を考慮し、2021年11月以降Convenorを交代する方向で後継候補者選定に入り、ドイツ (Dr. Alexander HARTUNG) のみから立候補の意思表示がなされ、その後、2023年7月にかけての投票により賛成多数で承認された。さらに、2023年6月までの投票により、本TS文書について、ISO/AWI-21251に格上げしての規格化方針が承認され、WDとして審議が進められている段階にある。

(4) SC2 (観測構造物) の動向

以下の既存規格について、現在定期レビュー中である。

- ・ 8333 (V型広頂堰)
- ・ 9826 (パーシャルフリューム)
- ・ 13350 (下開きゲートによる流量観測)

また、下記について、FDISが承認され、IS規格となった。

- ・ 19234 (三角堰での魚道を支援する低コストのバツフルによる解決法)

また、英国BSIより、今後のISO新規格プロジェクト(NWD)提案に向けて、以下の3案が10月17日のSC2国際会議において議論されたが、専門家の不足により結論は持ち越しとなった。

- a) 研究室条件と比較した、堰における流量係数(Cd)及び流速係数(Cv)導出における不確かさの計算法
- b) 堰背後の土砂堆積が不確かさに与える影響
- c) 洪水吐における流量算定

SC2の体制について、以下の動きがあった。

- ・ SC2/WG6 (ISO-4359: 長方形、台形、U字型フリュームによる開水路流量観測) が活動していないため解散された。
- ・ SC2/WG9 (ISO-19234) のConvenerについて、Sudan Servais (英国) の任期が3年延長された (2026年末まで) 。

なお、10月17日のSC2国際会議において、以下も合意された。

- ・ SC2のPメンバーとしての参加要件

今回の本会議からPメンバーの積極的な参加の監視を開始する。Pメンバーは、連続2回の委員会会議(対面、オンライン、または書面)に出席しない、または、ワーキンググループに任命される専門家がない(出席していない)時、継続的に活動していないとみなす。

- ・ 発効済みの規格の更新(定期レビュー)における不確かさの計算の必要な改訂

発効済みの規格の定期レビューの際の更新において、不確かな計算に関連する部分の改訂も行う。

(5) SC5 (測定機器とデータ管理) の動向

令和5年度には、定期レビューされた既存規格はなく、その他も含め、審議事項がなかった。

(6) SC6 (土砂輸送) の動向

現在審議中の規格は以下の通り。

- ・ 6640 (放射伝達法を用いた土砂混合水の密度測定法) :

2024年2月までの投票により、IS規格化 (FDIS承認過程の省略) が承認された。

SC6内のWGの体制について、以下の動きがあった。

- ・ SC6/WG5（ISO-6640: 放射伝達法を用いた土砂混合水の密度測定法の審議）のConvenorについて、Jovan THERESKA氏の3年任期延長（2023年10月末まで）が承認された(2023年12月)。

（7）SC8（地下水）の動向

令和5年度には、定期レビューされた既存規格はない。

SC8の体制については、以下の動きがあった。

- ・ 14686（井戸ポンプ試験-設計，性能，利用のための留意事項とガイドライン）を改定するためのWG2の設立が承認され，ConvenorはJaе Yeol Cheong氏（韓国），改定プロジェクトリーダーはRanjan Ray氏（英国）が指名された。
- ・ 21413（井戸における地下水位測定法）を改定するためのWG3の設立が承認され，ConvenorはTapan Chakraborty氏（英国），改定プロジェクトリーダーはPaul Johnston氏（英国）が指名された。

また，6月8日の個別国際会議において，以下の3つの新規格作成プロジェクトの立ち上げが提案された。

- a) 地下ダム
- b) 地下水かん養（地下水管理・計画のための地下水文観測を中心として）
- c) 地下水モデルの概念化

これらは，いずれも地下水に関連するとは言え，従来からSC8で審議してきている計測技術の枠組みを超えて，インフラ，管理技術・計画，および，モデリングに関する規格化提案となっていることから，次回のSC8会議（TC113全体会議の一部として2024年4月に予定）において，再度議論し，提案の可否を確認することとなった。

3. その他，特記すべき事項

新型コロナ禍の影響で，国際的な委員会活動としてここ数年低調な状況が続いていたが，令和5年度に入り，一部の分科会(SC)レベルからボトムアップ的に活動が急速に活発化しつつある。特にSC2における英国，SC8における韓国の積極的な提案・運営が目立っている。今後，これらの分科会における積極姿勢が，他の分科会やTC113全体での活動に波及し，TC113としてのScopeの拡大・活性化につながるのか，今後の動向を注視していく必要がある。

これらの国際動向の変化を受けて，国内検討委員会においても，結論は出ていないが，TC113の国内検討委員会の体制のあり方（民間側委員が少ない等のメンバー構成）や今後の活動の方向性（規格化対象の範囲の考え方）が議論となった。これらの課題について，官学民の関係者との議論を活性化させ，今後のあり方・方向性についての関係者間での共通認識を構築していく必要がある。

（公益社団法人土木学会 水工学委員会／一般財団法人河川情報センター 深見和彦）

開催日程及び会場について

【日 程】

開催日は、令和6年10月31日(木)～11月1日(金) [2日間]とする。

水シンポジウム開催日

令和6年10月31日(木) PM シンポジウム (対面形式+オンデマンド配信)

令和6年11月1日(金) 現地見学会

※台風シーズン明けの10月中旬以降とする

【会 場】

会場については、長野県長野市若里市民文化ホールとする。

会場

長野市若里市民文化ホール(長野県長野市若里3丁目22-2)
JR長野駅東口から徒歩25分 バス運行有

・メイン会場 : ホール(606席 13列バリアフリー)

□控え室等 : 楽屋(2部屋)、会議室(4部屋)

※会場の条件は、収容人数や立地条件などを考慮し、次のとおりとする。

(条件) 収容人数: 令和5年度佐賀県開催の現地参加者約300人と同程度を見込み、
倍の600名程度を確保できる施設

立地条件: 交通の便が良い(駅からのアクセスが容易)

メインテーマ（案）

治水 ONE NAGANO

～令和元年東日本台風から5年 未来に向けて私たちが学んだこと～

○メインテーマの趣旨

- ・長野県において、毎年のように豪雨による災害が発生している中で、特に、甚大な被害となったのが、令和元年東日本台風である。
長野県では、被災直後から早期復旧・復興に全力で取り組むとともに、この災害を契機に、「治水ONE NAGANO」を宣言し、国・県・市町村・民間企業・住民が協働して水害を軽減させる流域治水の取り組みを推進している。
- ・令和6年度は災害発生から5年という節目の年であり、本シンポジウムを通じて、災害からの復旧・復興や流域治水に係る長野県の特徴的な取組などを全国へ発信し、今後の防災・減災について議論したい。

参考：第27回水シンポジウム2023 in さが メインテーマ

SAGA 水ものがたり

～有明海と流域の営みにより作られた佐賀平野、成富兵庫から今に引き継ぐ流域治水～

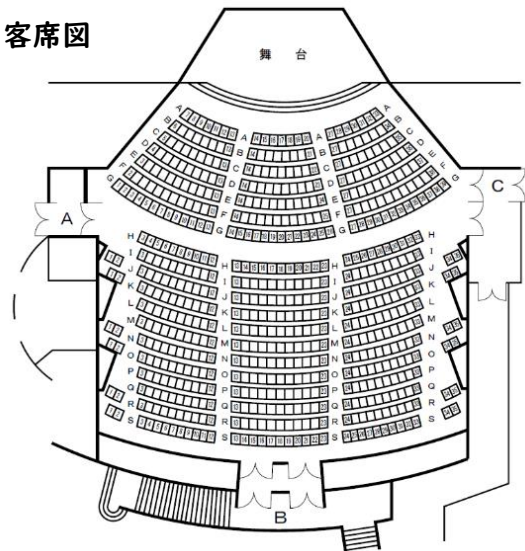
会場アクセス



会場状況



客席図



収容人数 606 席

「第28回水シンポジウム2024 in ながの」実行委員及び事務局員名簿

別表-1 実行委員会（◎実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考
◎	土木学会水工学委員会	委員長	泉 典洋	北海道大学
	土木学会水工学委員会	幹事長	佐山 敬洋	京都大学
	土木学会水工学委員会	基礎水理部会長	高橋 正行	日本大学
	土木学会水工学委員会 (令和元年台風19号豪雨災害調査団中部・北陸地区) 信州大学地域防災減災センター	地区団長 地域連携部門長	吉谷 純一	信州大学
	北陸地方整備局河川部	河川部長	松浦 直	
	北陸地方整備局千曲川河川事務所	所長	中根 達人	
	長野県建設部	部長	新田 恭士	
	長野市建設部	部長	横田 典久	
	長野SDGs地域防災プロジェクト		一杉 竜哉	

別表-2 事務局（●事務局長）

	機関名	役職名	氏名	備考
	土木学会水工学委員会	幹事長	佐山 敬洋	京都大学
	信州大学工学部	教授	吉谷 純一	信州大学 令和元年台風19号豪雨 災害調査団団長
	信州大学工学部	准教授	豊田 政史	信州大学 令和元年台風19号豪雨 災害調査団幹事
	信州大学地域防災減災センター	特任助教	神田 孝文	
	北陸地方整備局河川計画課	河川計画課長	高橋 恵理	
	北陸地方整備局千曲川河川事務所	副所長	寺田 勝一	
●	長野県建設部河川課	河川課長	川上 学	
	長野市建設部河川課	河川課長	平出 博視	
	長野SDGs地域防災プロジェクト		鈴木 司	

2025年水工学講演会(福島)

■ 開催日時(案)

2025年11月～12月

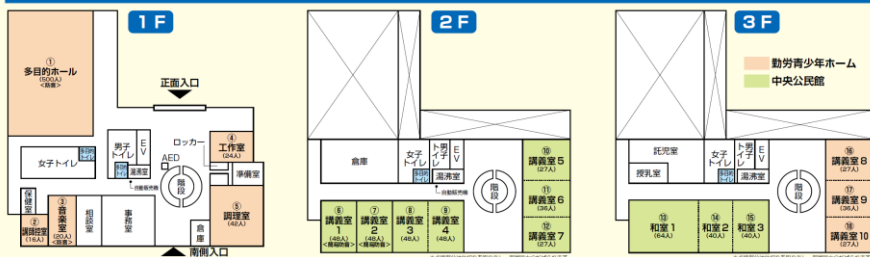
※水関連行事・編集スケジュールを勘案して調整

■ 会場 ※検討中

P1 郡山 郡山公会堂・郡山中央公民館

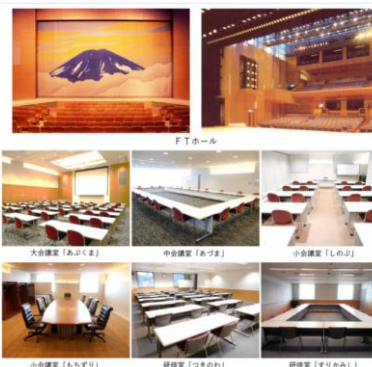


郡山市立中央公民館・郡山市勤労青少年ホーム



- 部屋数多い
- ホール2ヶ所

P2 福島 福島テルサ



F.T.ホール	1 F	811	473
母子室			7
>>座席表はこちら			
>>舞台図はこちら			
音楽室	B F	71	-
楽屋 (1)	B F	36	-
楽屋 (2)	B F	27	-
楽屋 (3)	B F	40	-
主催者事務室	B F	13	-
大会議室 (あぶくま)			
中会議室 (あづま)	3 F	127	72
小会議室 (しのぶ)	3 F	61	45
小会議室 (もちずり)	3 F	58	18
和室 (ほうらい)			
研修室 (つまのわ)	4 F	82	54
研修室 (すいかみ)	4 F	61	30
ギャラリー	4 F	111	-

- 部屋当たり収容人数多い
- 駅から徒歩10分

2025年度第1回水工委員会(6月 or 7月)に詳細を報告